



オプションのネットワーク リソース要件

- [DHCP](#) (1 ページ)
- [DNS](#) (1 ページ)
- [Microsoft Exchange](#) (1 ページ)
- [LDAP ディレクトリ](#) (2 ページ)

DHCP

ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP) の使用は Unity Connection のオプションで、Unity Connection サーバーのネットワーク設定を自動的に行う場合に使用できます。DHCPを使用しない場合は、ホスト名、IPアドレス、IPマスク、ゲートウェイアドレスなどのネットワーク設定をインストール中に手動で入力するか、またはインストール後にコマンドライン インターフェイスを使用して設定する必要があります。

DNS

Unity Connection では DNS 名前解決の使用はオプションですが、使用可能な場合は Unity Connection で使用する必要があります。DNS 名前解決が無効の場合は、すべてのネットワーク デバイスに対して (ホスト名ではなく) IP アドレスを使用する必要があります。

Microsoft Exchange

Unity Connection のすべてのバージョンで、Exchange 2019 または Exchange 2016 をカレンダー アプリケーションとして使用している場合、Unity Connection を構成して、ユーザーが電話を使用していくつかの会議固有のタスク、たとえば、会議の参加者のリストを聞いたり、会議の主催者にメッセージを送信したり、会議の参加者にメッセージを送信したりすることができます。会議の主催者は会議をキャンセルすることもできます。さらに、ユーザーが Microsoft Outlook を使用している場合は、会議の予定のリストを聞いたり、会議への招待を受け入れたり拒否したりすることもできます。

さらに、Unity Connection では、ユーザーが Messaging Assistant Web ツールを使用して Exchange の連絡先をインポートできます。インポートした連絡先情報は、Cisco Unity Connection Personal Call Transfer Rules Web ツールで作成するルールで使用でき、ボイスコマンドでコールを発信するときにも使用できます。

Unity Connection は音声合成を使用して、電話で Exchange 電子メールを再生できます。

また、Unity Connection のボイスメッセージが Outlook の受信トレイに表示されるように、Unity Connection と Exchange のメールボックスを同期することもできます。この機能は、一般にシングルインボックスと呼ばれます。

予定表情報へのアクセス、個人の連絡先のインポート、電子メールへのアクセス、およびメールボックス同期の設定でサポートされる Microsoft Exchange のバージョンの詳細については、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/requirements/b_15cucsysreqs.html にある『Cisco Unity Connection のシステム要件、リリース 15』の「Unified Messaging 機能を使用するための要件」の項を参照してください。

また、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/unified_messaging/guide/b_15cucumgx.html にある『Cisco Unity Connection のユニファイドメッセージングガイド、リリース 15』の「ユニファイドメッセージングの設定」の章も参照してください。

LDAP ディレクトリ

Unity Connection はオプションで LDAP ディレクトリ（たとえば、Microsoft Active Directory）を LDAP ディレクトリの同期化および認証に使用できます。サポートされている LDAP ディレクトリの詳細については、https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/requirements/b_15cucsysreqs.html で入手可能な『Cisco Unity Connection のシステム要件リリース 15』の「LDAP ディレクトリ統合の要件」の項を参照してください。

- 遅延はラウンドトリップで 80 ミリ秒を超えてはなりません
- 対応するポートと IP のアクセス制御リストをネットワークデバイスにプロビジョニングする必要があります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。